



音楽のよろこび

2024年1月22日 No.54

発行文責 担当事務局
田中正恭 田村乃里子

2024年新しい年が始まりました。1月1日、皆様はどこで何をされておりましたでしょうか。元日に発生いたしました能登半島地震に被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。受講生の方の中には北陸出身の方もおられると思います。他人事ではありません。1日でも早い被災地の復旧・復興及び安全をお祈りいたします。

「避難所で癒しのピアノ」というニュースを耳にしました。石川県七尾市に帰省中だったピアニストの方が、避難所となった小学校（母校だそうです）で、避難所生活の方々、職員の方々の前で演奏会。涙を流される方、子供たちはずっと笑顔だったそうです。生演奏で少しでも心が癒され、励まされたのではないのでしょうか。

さて、今日は「ニューイヤーコンサート」の日です。京響の皆様が今年こそ良い年をとプログラミングした名曲を、体全体で受けとめ、楽しみ、豊かな時間を過ごしましょう。音楽をいっぱい浴びて、その事が人に対する「やさしさ」として私たちの力となる。前を向いて生きていこう…そんな時間となるように……。

今日の出演者は、フルート：中川佳子さん オーボエ：高山郁子さん クラリネット：筒井祥夫さん
ファゴット：村中宏さん ホルン：水無瀬一成さん です。
では、よろしくお祈りいたします。

♪ 前回 「オーボエ：高山郁子さん ピアノ：松井萌さん」 ありがとうございました ♪

オーボエについて語りたいたことが山のようにある。そんな2時間でした。

まず、バッハのコンチェルトで心をわしづかみにされた方も多かったでしょう。そして歴史、先祖はギリシャの二本立ての笛→そしてショーム（13世紀後期～）→バロックオーボエ（17世紀～）、オーケストラに最初に入った管楽器だから作品は多い。そこからチューニング（最初の音合わせ）に使われるように…という説があります。

バロックオーボエは、いつかちゃんと演奏したい！とのこと。高山さんのバロックへと分け入る中で、今を確認するという姿勢、すごいですね。今のオーボエで「高み」に達していてもそこに安住しない姿勢が素晴らしいです。

オーボエ、オーボエダモーレ、イングリッシュホルン（コールアングレ）、バロックオーボエ、それぞれの特徴違いのお話、イングリッシュホルンは「新世界」の第2楽章が有名だけれど、ヒンデミットのソナタの演奏で、違う世界に連れて行ってもらいました。

そして「リード」のお話。材料の「よし」に触れさせてもらい、得難い体験をさせてもらいました。ピアノの松井さんも、高山さんの意をくみ、しかもご自分のピアノもしっかり…お話もよく笑いました。



～アンケートから～

いつもアンケートにご協力
ありがとうございます。
アンケートは一部抜粋したのも
あります。ご了承ください。

オーボエのやさしい音色に癒されました。ピアノの
乾いた音に、音の響きがなんとなく余韻のある感じ
の「オーボエ」に、幸せな気分を過ごさせてい
ただいた。

オーボエが宝石箱のような箱に分解され収納され
るのにも驚きでした。またリード作りでの先生の熱
い思い。原材料～加工～部品取付と初めて拝聴する
ことでした。草笛のような音色が本体を通すと、あ
んなにも柔らかく心地よい音色に変わるのに「オー
ボエ、すごい！」リードへの愛情と思いを込めゆっ
くり仕上げている様子が見え、目が浮かぶようでした。あ
りがとうございました。



今日は素敵な演奏とお話、ありがとうとございました。オーボエの歴史、オーボエダモーレ、イング
リッシュホルンの違い、並びにオーケストラでの
チューニングの音だしがオーボエであることなど、
クラシック音楽素人の私にとっては、目からウロコ
話ばかりでした。またリードを演者の方が自作され
ていて、葎でできていることも興味深いお話でした。
どちらかという、脇役的存在に考えていたオーボ
エでしたが、オーボエのコンチェルトを聴かせてい
ただいて、深みのある音色が心休まる音楽を楽しむ
ことが出来ました。（荒井亨さま）



哀愁を感じるオーボエをたっぷり聴かせていただ
くだけでなく、歴史やリードの作り方を丁寧にお話
しいただき、この講座をしっかりと準備くださった事、
嬉しいです。新世界のオーボエを聴きたかったです。



オーボエのリードは自分で作るということは知って
いたが、実物を見せていただき、制作過程も教えて
いただき、大変嬉しかった。楽しいお話で、もっと
聞きたいです。

オーボエについては知識がなくて、音を聞いてあ
あこの音だと思ったしだい。楽器をケースから
取り出すところから講義をいただき興味深々でした。
パソコンかと思っていたケースから黒に銀色輝く
オーボエが三部分に分かれ登場。宝石のような楽器
だ！と感動しました。

リード手作りされる職人技にも驚きました。リー
ド愛が強い。また古典楽器（原型）のパロック・
オーボエを新たに学んでおられると聞いてさらに
オーボエについて、深める努力をおこたらない姿勢
は素晴らしいです。

印象に残った演奏はピアソラの哀愁のこもった
「Oblivion」です。ピアノも心に響きました。木管
楽器のやさしいひびきに、心が休まるとともに強い
印象の残る大きな音も出て、不思議な楽器だと思
いました。（外村律子さま）



オーボエのことあまり知らなかったので、丁寧な説
明でよくわかりました。音色もおだやかで、とても好
きです。リード作りが大変なことは知っていましたが、
本当に大変だなおもいました。ありがとうございました。



オーボエが楽器ケースから出てくるのを初めて拝見
しました。オーボエの単独演奏はあまり聴く機会がな
かったので、素晴らしい音色で感動しました。 演
奏が終わるたびにすぐケアをする必要があるとの事、
極めてナイーブな楽器だということも知りました。さら
に「リード」は演奏者自ら作られるという事で、大
変だなどの印象を受けました。



今回も楽しくお聞きしました。特に「リード」は興
味深く感じました。



とての内容の濃い講義でした。リードもこんなに大
変な作りだとは知らなかったのです。オーボエソナタ
はお二人の演奏とは思えないほどの厚みのある素敵な
演奏でした。ピアノもとても素敵でした。



素敵な演奏を沢山の楽器で楽しませてもらったう
えに、リードのお話と現物を見せてもらって、本当
にありがとうございました。高価で手間のかかる
オーボエは私には無理です。でもいい音ですね。興
味深いお話と演奏は再度受講したいです。今回はパ
ロックオーボエの演奏も聴かせていただきたいと思います。
（布施博さま）

★事務局へ、ご意見・ご要望

◆次回も是非「大人の音楽教室」へ是非参加したい。希望者の多くが入場できるよう、イスの配置の更にお手伝いをお願いしたい。

◆来年の音楽教室楽しみです。

◆来年度も参加したいです。（抽選になったら嫌だなあ）

◆来年度も聴講希望します。

★事務局より

2024年度、講座に参加したいとのご意見を多数いただきました。ありがとうございます。

2024年度受講希望者数は119名。継続受講希望の方も多く、これも京響の講師の方々の熱意あるお話と演奏、そして真剣に受講くださる受講生の賜物だと思っております。なんとか工夫して全員受講できるようにしたいと思います。

来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

♪音楽に関する「ことば」
「詩」「文学的成句」

ロベルト・シューマン
(1810~1856) 著書
「音楽と音楽家」(岩波文庫) P40

《各号スペースがあれば、田中の独断でいいな~と思った「ことば」や「詩」「文学的成句」などを書いていきます。》

前にもご紹介した事もありますが、今回は、ロベルト・シューマン(1810~1856)の著書「音楽と音楽家」(岩波文庫)P40より、初期のロマン派の作曲家にして優れた評論家ロベルト・シューマン、この人は、ベートーヴェン、ベルリオーズ、シューベルト、そしてブラームスなどを論じています。音楽にとって、「美しい時代」ともよばれる時期にあって、貴重な文を残したといえると思います。彼の妻はクララ・シューマン、当時の優れたピアニストとして知られています。

考えてもみたまえ、美しい作品がその真価、その壮麗さを完全に発揮するには、どれほどの条件が一致しなければならぬことだろう！まず深い偉大な着想、作品の理想性。つぎに表現の熱誠。第三に演奏家の並々ならぬ技術、たつた一つの霊から生まれたのかと思われほど、調和のとれた共演。第四に、与えるものと受けるものの内面的渴望と要素が、ちようどその時最も具合よく調和していること(聴衆と芸術家の双方から)。第五に時間の関係と、場所その他の付属的な環境というような特殊な契機が、最も都合の良い状態にあること。第六に印象、感情、見解の伝わり方―まわりの人の眼に反映する芸術の喜び―。こうしたいろいろな事情がうまく一致するのは、六個の骰子(サイコロ)を一度にふって、六ばかり六つ出すようなものではないだろうか。―

次回は3月25日(月)

会場：鴨沂会館

13:00開場 13:30~15:30

「トランペット」

ハラルド・ナエス さん

華やかで輝かしい響きのトランペット。金管楽器の中で最も高い音域を担当する楽器です。オーケストラ・吹奏楽・ジャズ・ポップスなど幅広く活躍している楽器ですが、どんなお話と演奏になるか、楽しみです。

